

学校教育目標	かしこい子(知) やさしい子(情) がんばる子(意) げんきな子(体)
目指す学校像	一人ひとりのよさが輝き 笑顔と元気があふれる学校
重点目標	1 未来を担う子どもたちが将来を力強く生き抜くための真の学力の育成 2 主体的・実践的な態度を育成するための教育活動全体を通しての意図的な指導 3 学校を支えている地域の方や保護者を大事にし、地域とともにある学校づくりの推進 4 教育環境のハード面とソフト面の整備と安全・安心の確保 5 教職員のキャリアに応じて協働・協同し、組織を生かす学校・学年・学級経営

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○昨年度の「学びの指標」のアンケート結果は、30学級で4項目中2項目以上上昇し、良好であった。 ○各委員会や学校行事の活動については、子どもたちの思いが生きるよう、寄り添った指導をしている。 (課題) ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の手立がまとまりつつあるため、実効性を検証し研究発表会に向けて整える必要がある。 ○子どもたちの思いや取り組みの姿勢をこれまで以上に大事にできるよう、教職員の指導力を向上する。	○学習指導の充実	○「学びの指標」を生かした授業実践を行い、1回目のアンケート結果に基づいた指導法の工夫改善を行う。 ○加マ研「ザイマップ」を基に実践した授業の効果検証を行う。 ○「サキドリ」研究を実践する。	○全教職員、2回目の「学びの指標」の結果が1回目を上回る。 ○学年毎に加マ研「ザイマップ」に追記し、年度末には次年度のマップが完成する。 ○学校だより等で「サキドリ」研究の説明をするとともに実践成果を示す。 ○提案内容を会議で示す際、改善点をわかりやすく明記・説明している。 ○教職員が支援し、児童のアイデアが実現している活動になっている。					
		○主体性を引き出す教育活動の充実	○特別活動(児童会・委員会・縦割り活動、学校行事)を前年踏襲としないよう改善案の検討をするとともに、確実な共通理解を図り組織的に実施する。						
2	(現状) ○あいさつをはじめとする望ましい生活習慣について、教師も保護者も児童も重要だと理解し、課題意識を強くもっている。 (課題) ○教員が児童理解・生徒指導のための知識やスキルなどを身に付けるために更なる研修とブラッシュアップを行う。 ○早期発見・早期対応及び組織対応のため、教職員の一層の危機意識の醸成と情報共有に努める。	○望ましい生活習慣の定着	○あいさつへの積極的・継続的な支援と指導を徹底する。 ○毎月の生活目標に対する児童の実践意欲を高めるための支援を行う。	○教職員、保護者、児童すべての学校評価のあいさつに関する項目が令和7年度比5割アップする。 ○各学級で毎月の生活目標の具体的な目標を設定し児童主体の取り組みを行う。					
		○児童理解・生徒指導の充実	○休み時間等日常の様子やおはようミーティング、心のカード等を活用し、個々の困りごとやいじめの早期発見をするとともに、組織的に早期対応を行う。 ○児童理解・生徒指導に関して指導者を招聘して校内研修を実施する。	○学年会等での情報共有、管理職への報告等で組織的に対応している。 ○校内研修後、各教職員の具体的な行動の進化・深化、学校評価の教職員の研修の項目や児童の教員の言動に関する項目が令和7年度比5割アップする。					
3	(現状) ○昨年度の第3回学校運営協議会に、児童会役員がラウンドテーブルに参加し、情報交換を行った。 ○地域の方に授業と委員会活動で講師として迎え、貴重な経験をすることができた。 (課題) ○「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」について周知を図り、地域、保護者の理解を得たい。 ○地域等のイベントへの更なる参加率向上のため自治会、育成会と一層の連携をしたい。	○学校運営協議会との協働体制の確立	○毎回の学校運営協議会に児童会の代表が参加し、地域の課題を熟議する。 ○学校の働き方改革に関して熟議の項目に挙げる。	○学校だより等で熟議の内容を年間3回以上発信する。 ○「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」を熟議で紹介し、議論し、内容の理解を得る。					
		○地域人材の活用と教育活動等の積極的な発信	○学校運営協議会や学校地域連携コーディネーターと連携して得た地域の人材や教材を教育活動で活用する。 ○学校だより等で地域のイベント等を掲載するとともに、各学級で積極的な参加の声かけを行う。	○授業や委員会活動、クラブ活動等で、地域の人材や教材を活用した活動を年間3回以上行う。 ○学校評価の地域行事への参加の項目が令和7年度比5割アップする。					
4	(現状) ○図書館の掲示物やイベント、図書委員会児童の活動、図書ボランティアの読み聞かせ等により、図書館の活用率が高い。 ○sola る一むは、児童が安心できる場所としての理解と活用が進んでいる。 (課題) ○施設の老朽化による修繕、特にトイレの修繕は、教育委員会と連携し計画的に進めていく。 ○空き教室や廊下等の共用部が狭いため、常に整理整頓をし、有効活用したい。	○学習環境の整備	○学校図書館司書と司書教諭、図書ボランティアの協働による図書館環境のさらなる充実を図る。 ○学習保証の一つとして、sola る一むを効果的に活用する。	○図書館を、または図書館の本を教科指導のために授業で活用している。 ○休み時間に児童が図書館を活用している。図書委員の児童が活躍している。 ○いつでも Sola る一むを活用できるよう、組織で対応している。					
		○施設・設備の整備と安心・安全な環境	○教育委員会と連携を図り、トイレの修繕等を計画的に進める。 ○教室内や共用部の整理整頓を徹底する。	○教育委員会との情報を管理職と事務で常に共有し、計画的に進めている。 ○各教室、共用部の床面の落とし物、棚の不要な物等の整理・整頓、机上の整理等、清潔・安全に保っている。					
5	(現状) ○昨年度の計8教科の研究授業で得た指導法や事前の準備、目指す姿等の共有、招聘した指導者からの指導等を各教員が自身の授業に生かしている。 ○職員室は、協働・共同の雰囲気があり、教職員同士で、報告・連絡・相談がされている。 (課題) ○教職員一人ひとりが、教科指導、生徒指導等の専門性を高めるため、より一層積極的に自己研鑽に努めるようにしたい。 ○「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」に基づいた教職員の働き方について教職員が理解するとともに、これまで以上に互いの様子を気に掛け、声を掛け合うようにしたい。	○キャリアに応じた育成と協働・共同する職場の構築及び教職員の資質向上	○教職員一人ひとりが専門性を高めるための研修等に積極的に参加する。 ○研究授業を通して、該当教科のものの見方・考え方やタブレットの活用の仕方等を学ぶ。 ○キャリアナビ等を活用し、各教職員が自身の強み弱みを自覚し、目標を定めるようにする。	○校内研修、教育委員会主催の研修や教師力パワーアップ講座、サークル活動等の研修に積極的に参加し、学んだ内容を一人ひとりが日々の授業に生かしている。 ○キャリアナビ等を活用して自己研鑽を行い、成果を指導に生かしている。 ○学年主任・教科主任等を中心に、一貫した指導・支援をしている。					
		○職場の心理的安全性の確保及び良好な労働慣行の整備	○教職員の心身の健康維持・増進を図るためのワーク・ライフ・バランスを推進する。 ○風通しよい職員室環境を整える。 ○教職員一人ひとりが助け合いの観点で得意なことを生かして、学校運営に参画する。	○学年を中心互いに声を掛け合い、各自の1ヶ月の時間外等在校時間の平均を45時間以内とする。 ○体調等を産業医に相談する環境を整える。 ○教職員の teams を活用して、指導法等自身の学びを発信し、交流している。					

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組